

令和元年度第2回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会

令和元年7月22日（月）

【事務局（内田）】 みなさん、こんばんは。保健医療課の内田でございます。

よろしくお願いします。定刻になりましたので、只今から、令和元年度第2回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を開催させていただきます。

委員の皆様には、お忙しい中ご出席していただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、会議に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。座って失礼します。本日お手元にお配りいたしました資料といたしましては、令和元年度第2回桑名市総合医療センター評価委員会次第、次に、地方独立行政法人桑名市総合医療センターの平成30事業年度に係る業務実績に関する評価に対する意見（案）、次に、評価に対する意見小項目評価（案）、A3判のこちらになります。次に、資料A、第2期中期目標期間の業務実績に関する評価についてですが、こちらは、前回お配りさせていただきましたが、平成30年事業年度の評価結果を、前回の評価委員会での評価結果に修正をいたしましたので、差し替えをお願いいたします。次に、参考1、財務諸表の承認について、次に、評価委員会の補足資料ナンバー1からナンバー3、そして、最後に席次表でございます。

また、前回の会議でお配りした資料のうち、A3判の平成30年事業年度に係る業務実績報告書、次にA4判の平成30年度財務諸表等、次に、A3判、第2期中期目標期間に係る業務実績報告書、次が資料B、過去の評価結果、資料C、平成26事業年度から平成29事業年度の評価結果を本日使用する予定としています。

次に、本日の議事進行につきましてご説明させていただきます。

前回、平成30事業年度の業務実績報告書の大項目第2までご議論いただきました。本日は、第3からと平成30年度財務諸表等について、委員の皆様からご意見をいただいた後、前回の評価委員会でのご議論をいただいた評価項目をまとめた評価に対する意見についてご確認をいたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の議事に入りたいと思います。

豊田委員長、会議の進行をよろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 それでは、早速ですけれども、議事に入らせていただきます。

まず、業務実績報告書の21ページ、大項目の3です。21ページの大項目3の一番下

のところから22ページ以降になりますけれども、予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画というところでございます。

ここにつきましては、財務諸表に対する意見聴取の際に説明してもらうことといたしまして、22ページから、大項目4の短期借入金の限度額から23ページ、第8、桑名市地方独立行政法人施行細則第5条で定める事項までについて報告をしていただきます。この項目は評価項目ではないということでございますが、総合医療センターのほうから実施状況の報告をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【北野（経営戦略室室長）】 では、管理部の北野と申します。

平成30事業年度に係る業務実績報告書の大項目第4のところから報告をさせていただきます。

22ページをお願いいたします。

大項目第4、短期借入金の限度額。限度額につきましては、18億円としております。平成30事業年度の残高は13億円となっております。

次に、大項目の第5、不要財産または不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画。こちらは該当なしとなっております。

次に、大項目の第6、不要財産または不要財産となることが見込まれる財産以外の重要な財産を譲渡し、または、担保に供しようとするときは、その計画。こちらにつきましては、旧桑名西医療センター跡地の売買契約が締結されたことにより該当なしとなっております。

次に、大項目の第7、剰余金の使途。平成30年度決算におきましては、剰余を生じませんでしたので、特に該当する内容はございません。

次に、大項目の第8、桑名市地方独立行政法人法施行細則第5条で定める事項、中項目の1、地域の医療水準向上への貢献に関する計画。

23ページをお願いいたします。

こちらにつきましては、看護学生及び薬学生等の受け入れを行い、地域の医療従事者の育成に取り組みました。また、病院内に救急ワークステーションを設置し、救急救命士の実習の受け入れを開始いたしました。

中項目の2、医療機器の整備に関する計画。新病院開院に伴い、高度医療機器の新規購入は一旦終了いたしました。定期的な更新が必要となるため、医療機器整備検討委員会にて長期的な医療機器更新スケジュール案の検討に着手いたしました。

中項目の３、新病院の準備に関する計画。

２４ページをお願いいたします。

旧３病院を統合し、新病院を３２１床にて開院いたしました。また、既存棟（西棟）の改修を実施し、平成３０年１０月より３５９床、平成３１年４月より４００床にて運用を行っております。

中項目４、法人が負担する債務の償還に関する事項。法人が桑名市に対して負担する債務の元金償還を計画どおり実施いたしました。

２５ページをお願いいたします。

中項目５、その他法人の業務運営に関し必要な事項。障害者就労施設からの物品等の購入については、平成３０年度は購入実績がなく、計画値を達成できませんでした。また、障害者の雇用の促進につきましては、計画値が２．３％以上に対し、実績値は２．０５％となり、こちらについても計画値を達成することができませんでした。

以上、平成３０事業年度の業務実績に関する報告でございます。よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 それでは、今のところで委員の皆様方から何かご意見、ご質問などはないでしょうか。

障害者の雇用率、最近、どこの事業所でもかなり厳しく言われていますが、マスコミ等でも取り上げられて、例えば、病院で障害者の雇用、どういうふうな仕事をさせているのか、その辺、ちょっとお教え願えませんでしょうか。

【北野（経営戦略室室長）】 管理部の北野と申します。

主に事務補助業務に従事している職員が多くなっております。データの入力、あるいは書類の整理、そういった業務を担当している職員が中心になります。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

ほか、委員の皆様方から何かご質問はございませんでしょうか。よろしいですかね。これは一応、この委員会の評価項目ではないということでございますので。

それでは、続きまして、平成３０年度財務諸表等について、市長が承認するに当たり、事前に事務局で確認した事項について報告をお願いいたします。

【事務局（内田）】 本日お配りいたしました参考１の資料、財務諸表の承認について、確認事項報告書をごらんください。

総合医療センターが作成する財務諸表等につきましては、市民及びその他の利害関係者

の判断を誤らせることのないように財政状態及び運営状況を適切に示す必要があります。
そして、地方独立行政法人法の規定において、地方独立行政法人は、毎事業年度、財務諸表を作成し、当該事業年度の終了後3カ月以内に市長に提出し、その承認を受けなければならないとなっております。

また、平成30年4月より地方独立行政法人法改正が施行されたことにより、桑名市総合医療センター評価委員会条例におきまして、評価委員会の所掌事務として財務諸表の承認に関することに関して意見を述べることを定めさせていただいております。

そこで、これに先立ち、事務局において、合规性の遵守と表示内容の適正性の観点から、提出された財務諸表について、次の確認を行いました。

合规性の遵守については、財務諸表は、6月末日までの提出期限内に提出されているか。

財務諸表として必要な書類は、全て提出されているか。

監事の監査報告書は、適正意見表示であり、財務諸表の承認に当たり考慮すべき特段の意見はなかったか。

表示内容の適正性については、提出された財務諸表は、表示科目など、記載すべき項目について明らかな遺漏はないか。

合計等の計数は、整合性がとれているか。

書類相互の数値は、整合性がとれているか。

以上の確認を行った結果、齟齬はなく、総合医療センターの財務諸表につきましては特に問題はありませんでしたということを報告いたします。

【豊田委員長】 ありがとうございました。

医療センターから市のほうに提出された財務諸表等につきましては、適切に処理がなされているということでございました。

ここで確認されたこととしては大きく2つで、1つは承認の確認、合规性の遵守と、2の記載項目の精査、表示内容の適正性ということでございますが、いずれも適切であったというふうに確認をしたということでございます。

それでは、続きまして、総合医療センターから財務諸表等についての説明をお願いいたします。

【新山（経営管理課課長）】 管理部の新山と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、まず、使う資料から先にご説明させていただきます。

前回の会議でお配りさせていただきました財務諸表等という、おそらくクリップ留めを

されているA4判のものがお手元にあるかと思います。そちらをまず使わせていただきます。

その後に、前のほうで、パワーポイントで損益を説明させていただいた後、最後に、本日、A3カラー刷りをお配りさせていただきました。そちらを使って説明させていただきます。お手元におそろいでしょうか。

それでは、まず、こちらの財務諸表等のほうからお願いいたします。よろしいでしょうか。それでは、説明させていただきます。

まず、平成30年度第10期事業年度の財務諸表等についてご説明をいたします。

まず、財務諸表につきましては、地方独立行政法人法第34条に基づき、貸借対照表、損益計算書、利益の処分または損失の処理に関する書類、附属明細書、桑名市独立行政法人法施行細則第10条に定めるキャッシュフロー計算書、行政サービス実施コストの計算書の作成が義務づけられており、財務諸表の提出に当たりましては、先ほども説明がありましたとおり、3カ月以内にこれらをそろえて提出するということになってございます。

それでは、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書を中心に後ほどこちらはパワーポイントで説明させていただきますので、まずは、こちらの財務諸表等からお願いいたします。

1ページをお願いいたします。

貸借対照表が載っているかと思います。こちらから簡単に説明させていただきます。

まず、1ページの貸借対照表、資産の部をごらんください。

まず、一番表の右下、資産の合計が載っております。資産の合計としましては、213億4,800万円余となっております。このうち、右から2つ目の欄に行きますが、固定資産は194億5,600万円余、流動資産は18億9,100万円余となっております。

今期の固定資産の増減内訳につきましては、この後ろについています附属明細書11ページ、こちらに詳細が載っておりますので、後ほどご確認をお願いしたいと思います。

また、医薬品等の棚卸しの内訳につきましては、その次、附属明細書の12ページに記載してございます。

それでは、1枚おめくりいただきまして、2ページをごらんください。

負債の部、純資産の部でございます。

まずは負債の部でございますが、負債合計、こちらは189億5,000万円余で、このうち固定負債は156億7,000万円余、流動負債は32億7,900万円余となって

おります。

長期借入金及び移行前地方債償還債務の明細につきましては、附属明細書 13、14、15 ページに記載しております。

続きまして、その下、純資産の部をごらんください。

資本金、こちらは 52 億 5,600 万円余、資本剰余金 29 億 7,300 万円余を計上しております。

最後に、繰越欠損金、こちらはマイナス 58 億 3,300 万円余とし、内訳として、前期繰越欠損金 34 億 400 万円余と、当期総損失 24 億 2,800 万円余となっております。

以上、純資産合計は 23 億 9,700 万円余、負債、純資産合計 213 億 4,800 万円余となっております。

続きまして、損益計算書をお願いいたします。

3 ページ目でございます。

一番右の欄でございます。営業収益 100 億 9,400 万円余、営業費用 120 億 9,000 万円余となり、差し引きの 19 億 9,500 万円余、こちらが営業損失でございます。

営業外収益は 1 億 8,900 万円余、営業外費用は 1 億 1,700 万円余を計上し、さきの営業損失に営業外収益、営業外費用を含めた経常損失は 19 億 2,300 万円余となっております。

経常収支比率は 84.2% となっております。

先述の経常損失、こちらに臨時利益、臨時損失の差し引き、マイナス 5 億 400 万円余を加えた 24 億 2,800 万円余が当期純損失となっております。

なお、医業費用の明細につきましては、附属明細書 24、25 ページに記載しております。

続きまして、4 ページをお願いいたします。

キャッシュフロー計算書でございます。これは、平成 30 年度事業における資金収支を示したものでございます。30 年度の資金期末残高は 2 億 8,600 万円余となっております。一番下の段でございます。内容につきましては、後ほどパワーポイント等にてご説明させていただきます。

続きまして、5 ページをごらんください。

損失の処理に関する書類でございます。この書類につきましては、先ほどご説明いたし

ました平成30年度事業の損益計算書において生じた当期総損失24億2,800万円余に前期繰越欠損金の34億400万円余を加えた58億3,300万円余を31年度、令和元年度に繰り越す書類となっております。

続きまして、6ページをごらんください。

6ページは、行政サービス実施コストの計算書でございます。

30年度の行政サービス実施コストとしましては、一番下の段右端にございます29億7,100万円余を算定しております。平成29年度の行政サービス実施コスト、こちら、掲載はしてございませんが、23億9,900万円余でしたので、5億7,200万円余の増加となっております。

続きまして、7から9ページまで、注記事項でございます。

こちらの注記事項につきましては、地方独立行政法人会計準則に沿って開示する事項を記載しております。

例年、前年度から大きく変更した項目のみご報告しておりますが、今年度分、30年度分は、大きく記載内容に変更はございません。また、会計方針の変更等もございません。

9ページをごらんいただけますでしょうか。

9ページ、Ⅷ、重要な債務負担行為につきましては、30年度中もしくは30年度以前に契約行為が実施され、支払いが翌年度以降になる契約事項につき、その金額が大きなものにつきましては情報開示することになっております。今回は、複数年度契約をした施設警備委託等を昨年度に引き続き記載しております。

続きまして、めくっていただきますと、財務諸表等の附属明細書になります。こちらは明細になりますので、説明は省略させていただきます。

ページが飛びますが、決算報告書というものが挟んであるかと思われます。大分後になりますが、30年度決算報告書、1枚の裏表のものになるかと思われます。よろしいでしょうか。

この決算報告書につきましては、法人が年度計画の1項目として公表している予算の部分に従い作成し、予算計画と対比し、執行状況をあらわす書類となっております。決算報告書は現金主義にて作成しており、見返戻入や、減価償却費等の非資金取引は含まれておりません。発生主義で作成した先ほどの損益計算書とは数字が異なっております。

最後に、監査報告書をお願いいたします。

法人は、地方独立行政法人法第34条第2項の規定により、財務諸表を設立団体の長に

提出するときは監事の意見を付することが義務づけられております。監査の結果につきましては、報告書のとおり、法人の財政状況、運営状況を適正に表示していること、また、法令に適合していると認められるとの意見が付されております。

以上、30年度の財務諸表について説明させていただきました。また、その後ろについております事業報告書につきましては、前回の業務実績報告書と内容が重複するため省略させていただきます。

このまま引き続いて、パワーポイントのほうで説明させていただきます。前のほうをお願いいたします。

それでは、前のほうで、損益計算書を中心に説明させていただきます。

まず、100万円単位にしていることによりまして、先ほどの財務諸表等とは若干端数の整合性がとれないところがございます。そこらはご了承ください。

まず、収益の部からでございます。予算との対比をしております、単位は100万円、こちら左側から予算、決算で、増減を示しております。

営業収益でございます。予算は98億7,000万円を見込んでおりました。決算額としましては、100億9,500万円と、2億2,400万円増収という形になっております。中身としましては、医業収益の中の入院収益、こちらでは61億円という決算額で、予算より1,500万円増収となっております。

外来につきましては、31億4,600万円という予算に対しまして、2億5,200万円増収となっております。

入院、外来とも延べ患者数は予算に達しませんでした、単価が大きく上がったことによりまして、結果的に増収というふうになってございます。

続きまして、営業外収益をごらんください。

こちら、予算では2億9,100万円を見ておりました。決算は1億8,900万円と、こちらで大きく1億円程度減収となっておりますが、その理由としましては、こちらの運営費負担金収益といいまして、設立団体より交付されます負担金、こちらの処理方法が変更になりましたため、一括で収益を上げることができないものが増えました。運営費負担金の金額として変わりはございませんが、計上科目が変わりまして、本来ここに計上すべき予定であったものが負債勘定のほうに行っております。その差、1億1,500万円ございまして、営業外収益が減収という形になっております。

営業収益と営業外収益を足しました収益合計としましては102億8,400万円と、

予算より1億2,300万円増収という形になっております。

臨時利益、こちらは予算には見込んでおりませんでした、1,000万円程度発生しております。こちらは、3病院を1病院にまとめる際に不要になりましたCT等を売却したものの利益でございます。

続きまして、費用の部でございます。

営業費用、予算では112億6,600万円見込んでおりましたが、決算額としましては120億9,000万円と、先ほどの収益より大きく費用が膨らんでおります。8億2,400万円、予算より膨らんでおります。内訳でございますが、医業費用の中の給与費、まずこちら、59億3,600万円となりまして、予算より1億5,100万円増えております。大きなものとしましては、引越しの伴う時間外手当、この類いが大きなものでございました。また、非常勤の医師、特に麻酔科医ですが、このあたりの費用が増えております。

続きまして、材料費でございます。実績は23億9,800万円と、予算の20億5,700万円に比べまして、3億4,200万円増えております。また、ちょっと見にくくて申しわけございませんが、予算は税込みでつくられておりまして、決算は税抜きでつくっておりますので、その材料費あたりは、この差プラス消費税分、約2億弱、1億9,000万程度余分に増えておるという状況でございます。その増えているのは経費のほうに入っておりますので、経費から逆に1億9,000万円ほど軽くなるということになっております。

経費のほうは、21億4,900万円と、予算と対比しますと3億2,600万円増えてございます。こちらは、移設費であるとか、引越し代であるとか、このあたりで少し値が上がったものが費用増という内訳でございます。

あとは、減価償却が13億500万円となっております。

営業外費用、こちらは1億4,100万円の予算に対しまして1億1,800万円と、こちらは2,300万円程度下がっております。主な要因としましては、財務諸表で利息を見込んだ分が若干軽く済んだというところでございます。

損益とキャッシュフローでございます。

営業損益、予算ではマイナス13億9,500万円を見込んでおりましたが、決算額としましては、マイナス19億9,500万円と6億円悪化という状況でございます。

経常損益も、営業に続きまして、マイナス6億7,900万円悪化しているという状況

でございます。

最終当期損益としましては、10億7,000万円、予算より悪化という状況でございます。悪化した要因としましては、営業損益、こちらは、先ほどの、スライドを1つ戻させていただきますが、材料費3億4,200万円、こちらに税込みと税抜きですので、この消費税分を足しますと、約5億3,000万円程度になります。これが一番損益を悪化させた要因かと思われます。

もう一つ、こちらの当期損益がさらに4億円悪化しているところは、スライドを1つ戻りまして、すみません、ちょっと説明を抜かしましたが、臨時損失、こちらが予算では1億1,400万円見込んでおりましたところ、決算は5億1,400万円と約4億円増えてございます。この理由としましては、西医療センターの跡地の処理の方法でございます。当初、この年度内に跡地がどのようなになるかは明確でなかったんですが、もし跡地が売れなかった場合は、この損益計算書上ではなく、出資にかかる不要財産として貸借対照表上の減資という形をとるという処理になってまいります。

また、土地が売れた場合は、今回の処理のように、この損益計算書上で処理をするということで、売れる、売れないというのが明確でなかったため、予算として計上しておりませんでした。その分、今回は土地が売却できましたので、こちら、予算にプラスして4億円程度増えているという状況でございます。この4億円は、西医療センターの跡地を売却するときの売却損が主なものでございます。

以上の結果で、損益としましては、当初13億5,900万円を見込んでおりましたが、マイナス2億2,800万円と、10億円程度、当初予算より悪化したという状況でございます。

続きまして、単年度のキャッシュフローでございますが、予算ではマイナス2億7,000万円程度でおさまると見込んでおりましたが、決算で7億5,000万円程度に膨れ上がったのも、先ほどのことが一番大きく影響しております。材料費で約6億円上がったところ、このあたりが大きく影響しておりますが、それより減っている理由としましては、先ほどの西医療センターを売却した際、約9,000万円程度、現金が入ってきております。この分で約9,000万円程度、そこから浮いた形になっております。ざくつとした数字で申しわけございませんが、材料費で費用が上がった分、土地を売却して9,000万円程度お金が入ったということが単年度の予算と決算の差額のところでございます。

この先、営業収益から順番に、前年度と予算と実績を対比してまいります。

こちら、ちょっと見にくいですが、青のつもりですけど、紫に見えますでしょうか。こちらが29年度、前々年度の実績でございます。緑、こちらが予算で見込んだものでございます。黄色、オレンジ、こちらが30年度の実績でございます。単位は全て100万円、決算は税抜き、予算は税込みとなっております。

まず、営業収益でございますが、29年度に対しますとかなり増えている、6億円程度増えております。予算よりも2億円程度増えております。

入院の収益でございます。上に書いてございますのが収益でございます。こちらに平均の患者、1日当たりの患者数と稼働率を記載してございます。上のものは入院単価でございます。29年度から比べますと、入院単価が約6,000円程度増えております。予算に比べましても3,700円程度、単価が上がっております。しかし、予算で見込みました1日当たりの患者数を比べていただきますと、約20人程度少ないという状況でした。これが影響しまして、単価は上がりましたが、予算対比で1,500万円程度の増収にしかならなかったというものでございます。

続きまして、外来収益でございます。外来も同じつくりとなっております。29年度は単価が1万1,000円程度、30年度は1万4,000円程度と、3,000円程度、単価が上がっております。予算からも約2,000円上がっております。こちら患者数は1,000人を見込んでおりましたが、914人と、1日当たり約85人程度少ない状況でした。ただ、こちらは単価の上り幅が大きかったことがありまして、患者は少なかったですが、予算を2億5,000万円程度上回る収益となっております。

こちらは、市のほうからいただいております運営費負担金でございますが、6億円を見込んでおりましたが、5億6,600万円という状況でございました。

営業外収益、こちらは先ほどご説明しました運営費負担金の収益部分が変わりましたので、予算より減っているという状況でございます。前年、29年度と近い数字となっております。

臨時収益でございますが、先ほどご説明しました1,000万円、内訳としましては、不要になりましたCT等の売却のお金でございます。

ここからは費用でございます。

営業費用、こちら、29年から比べますと20億円程度増えております。予算と比べましても8億円程度増えております。

給与費でございますが、こちら、予算で57億8,000万円程度見ておりましたが、

59億3,000万円と、1億5,000万円程度増えました。先ほど申し上げましたが、こちらは非常勤の手当、時間外の手当ですね。こちら、引越しの伴う手当と非常勤医師の賃金、この類が多くかかったというものでございます。

こちらは給与費、一般管理費というのは、間接部門、我々の総務系の給与でございますが、間接部門を足したものがこうなっております。人件費率は64.4%の見込みで64%と、若干下回ることにはできましたが、まだまだ高い状況ですので、先ほど委員長からもございましたが、これを中期計画では50%台に持っていきたいというふうに考えております。31年度は58.8%程度にはもっていきたいと考えております。

薬品費でございます。こちら、大きく増えております。29年度の8億6,300万円に対しまして、約3億円程度増えております。ここも幅が大きく増えております。

また、予算で見ておったものよりも1億6,000万円増えております。この理由としては、抗がん剤の使用、こちらが増えたということが大きな要因かと思われます。ただし、このおかげで外来単価も予算より2,000円程度上がっているという状況でございます。

続きまして、診療材料費でございます。こちらは、29年度と比べますと1億6,000万円程度、予算と比べましても1億8,000万円程度増えてございます。こちら材料の単価自体は値引き交渉しまして、大分抑制してきたんですが、手術室の使用が増えたところによりまして、材料費自体は増える傾向となっております。

経費でございます。先ほどご説明しました、この中には材料費の消費税、1億9,900万円が含まれております。税込みと税抜きの違いがでございます。3億円程度、予算より増えている状況でございます。中身としましては、新病院の移転費用、旧医療センターの不要物の処分費用等の一過性のものが大きく出ております。

減価償却費です。こちらは、新病院としましたので、29年からは大きく増えて、13億円程度が出ております。

一般管理費、間接部門の経費ですが、これはほぼ予算を少し下回った状況でございます。

営業外の費用でございます。これは先ほどご説明しました利息が減ったというもので、減少しております。

臨時費用でございます。こちら、29年度の臨時費用、こちらが大きいのは、新病院の控除対象外消費税、新病院を建設したときの控除できない分の消費税を臨時費用として一括計上してございます。30年度は1億1,400万円を見込んでおりましたが、こちら

は改修棟の控除対象外消費税を見込んでございました。また、4億円増えた理由としましては、西医療センターの跡地の売却に伴う費用でございます。こちらが4億円程度発生いたしましたので、予算を上回る状況となってしまいました。

経常損益でございます。先ほどもご説明しましたとおりでございますが、予算に対して6億7,000万円程度悪化という状況でございます。主には、診療材料、薬品費のところが大きく影響していると思われます。

臨時費用は、先ほどの材料費にプラスしまして、西医療センターの売却損が大きく影響してございます。

キャッシュフローは、先ほども説明しましたが、材料が増えた分、キャッシュフローも悪化したという状況でございました。

あと、これは30年度の単年度の簡易のキャッシュフローの推移でございます。以前、こちらでどういう形で改善していけるかということで示した表と同じものを使ってございます。折れ線グラフが予算で見込んだ簡易のキャッシュフローの数字でございます。棒グラフが実績の簡易のキャッシュフローでございます。

この10月で改修棟が一部オープンしまして、4月から9月までは321床で運営をしておりました。10月からは改修棟の一部が完成しましたので、359床で運営し始めております。ここ以降は、わずかではございますが、全てキャッシュフローでは黒字という状況が続いておりました。

ただし、予算上では、この12月に400床フルオープンをする予定にしておりましたが、看護師の数の問題であったり、看護必要度の問題であったり、在院日数の問題であったりと、総合的な問題がございましたので、359床のままで運営を続けたので、思ったほどのキャッシュフローの改善はなかったというものでございます。

それで、最後、29年度と予算と30年度を数字で並べさせていただきました。先ほど説明したとおりでございます。キャッシュフローでは、マイナス7億5,100万円という状況で、当期損益はマイナス24億2,800万円という状況でございました。

以上が損益計算書を中心にした説明でございます。

また、すみません。バランスシートにつきましては、こちらの表で説明させていただきたいと思いますので、よろしいでしょうか。一旦、パワーポイントは終了させていただきます。

では、先ほど委員の皆様にはお配りしております評価委員会補足資料というA3のカラ

一刷りのものをごらんください。

こちらのナンバーワンにつきましては、先ほどご説明しました損益計算書が書いてございますので、こちらは省かせていただきます。

ナンバーツー、2枚目をごらんください。

こちらに貸借対照表が29年度と30年度、年度を比較できるように記載してございます。こちらでご説明させていただきます。よろしいでしょうか。

まず、上段部分の数値のところをごらんください。29年度と30年度を比較しております。大きく変動したものにつきまして、ご説明させていただきます。

まず、左側の青いラインが入っているほうをごらんください。資産のほうでございます。

固定資産につきましては、西医療センターの跡地売却に伴いまして、土地勘定で4億7,500万円余減少となっております。

建物につきましては、改修棟分の増加等として2億1,500万円余、器械備品でがん治療装置をメインとし、3億4,800万円余を増加しております。

流動資産につきましては、現預金が15億3,800万円余減少しております。

その右側、固定負債等をごらんください。

固定負債につきましては、改修棟等に伴う借入金によりまして、6億1,300万円借入金が増えてございます。新病院用の医療機器等のリース契約に伴いまして、その他のところで5億3,200万円増加となっております。

流動負債、こちらにつきましては、短期借入金が13億円増加しております。新病院建設等の未払い分が20億2,400万円余減少となっております。

純資産につきましては、出資等による資本金の増加が3億3,600万円余増加しております。繰越欠損金、こちらは先ほどもご説明いたしましたが、24億2,800万円増加という状況となっております。

主な増減理由につきましては、一番下のオレンジの枠の中に記載しておりますので、ご確認いただければと思います。

流動負債が流動資産を上回る苦しい決算となっておりますが、当年度から中期計画の目標に沿って、第3期中期計画期間中にバランスシートの内容が好転するよう、収支の改善に努めてまいります。

続きまして、右隣のキャッシュフロー、こちらをごらんください。

こちらは、財務諸表等の4ページに該当するものでございます。

キャッシュフローにつきましては、29、30年度と比較しまして、グラフと文字で示させていただいております。

まず、中段のオレンジの枠をごらんください。

こちら、30年度の業務活動のキャッシュフローにつきましては、7億8,000万円余のマイナスとなっております。

投資活動につきましては、31億2,000万円余のマイナスとなっております。

財務活動につきましては、23億5,900万円余のプラスとなっております。これらを合わせました単年度の資金収支はおよそ15億4,000万円余の減少となっております。ただし、この減少は、29年度に新病院建設に伴う費用の前受け分がありましたので、これらを差し引いた30年度の実質キャッシュフローは、先ほどご説明しました7億5,000万円余のマイナスという状況でございます。

一番下の緑の欄をごらんください。キャッシュフローのタイプでございますが、昨年度に引き続き、⑤のタイプとなっております。

医業収益では増収となりましたが、費用も増加したことによりまして、費用を収益が上回れず、このようなキャッシュフローとなっております。営業収益の増収により業務活動がプラスとなりますよう努力してまいります。

3枚目をごらんください。

こちらは、先ほどご説明しました財務諸表等の5から26ページに記載されているものと及び決算報告書について説明が書いてございます。

財務諸表等のほうでご説明申し上げましたので、この場では省略させていただきます。

以上で財務諸表等のご説明とさせていただきます。ご審議、お願いいたします。

【豊田委員長】 ありがとうございました。

それでは、ただいまご説明のありました法人の財務諸表等につきまして、委員の皆さんからご質問、ご意見、いただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

どうぞ。

【永藤委員】 西医療センターが売却されて、損失が出ているんですけれども、損失金額は想定どおりの金額だったのか。

【新山（経営管理課課長）】 管理部の新山です。

一応これは、入札が動く前に、参考見積もりと言ったらおかしいですけど、鑑定評価をとりまして、大体おおよそこれぐらいになるだろうなという想定をしておりましたので、

想定範囲内と考えております。

ただ、1点、法的には問題ないんですが、油汚染の処理代はちょっと想定外だったなと思われま。

【豊田委員長】 最終的には売却損ということですよ。その内訳といいますか、土地のお金が幾ら入ってきて、そういう処理代に幾らかかったとか、その辺のところをもうちょっと詳しくご説明願えませんでしょうか。

【新山（経営管理課課長）】 当初は、土地等の売却という形で契約をさせていただきました。その土地等といいますのは、土地はもちろん価値があるんですけども、その上に乗っています建物等は価値がありませんので、ただ、分離してしまいますと、土地しか売れなかったという形では困りますので、上物も合わせて買っていただきたいということで、プロポーザルを実行しております。

その際、土地がおおよそ5億円程度で売れるという見積もりを立ててございました。ただし、解体等に3億数千万円かかるだろうということで、当初、手元には1億3,000万円程度残るのではないかという想定で、プロポーザルをさせていただいております。

ただ、先ほど手元に残ったのが9,000万円程度と申しましたのは、油汚染の処理代に4,400万円程度費やしたというものがございます。なので、土地としては5億円程度で売れ、解体費で3億数千万円程度かかるという想定をしておりました。

【豊田委員長】 ということは、9,000万円プラスだったということ。

【新山（経営管理課課長）】 はい。

【豊田委員長】 ということは、売却益だったということですか。

【新山（経営管理課課長）】 こちらが土地と建物で5億1,500万円程度ありましたので、売却損ですね。

【豊田委員長】 4億円ぐらいの売却損というふうにさっき説明があつて、僕、ちょっと素人でわからない面があるんだけど、1,000万円、キャッシュ上はプラスになったということですか。

【新山（経営管理課課長）】 はい。そうでございます。

【豊田委員長】 損益上は4億円ぐらいマイナスになったということですか。

【新山（経営管理課課長）】 そうですね。会計上の数字が5億円ぐらいあつて、キャッシュが1億円入ってきますので、4億円ぐらいの形になります。

【豊田委員長】 ということは、キャッシュフロー上はプラスだったと考えていいわけ。

【新山（経営管理課課長）】　　そうでございます。

【豊田委員長】　　7億円のキャッシュのマイナスのうち、うちでというか、その説明で何か売却損とどうのこうのとおっしゃったけど、そういうことじゃなくて、7億円のキャッシュのマイナスの内訳の中には、売却損を含めてはいけないわけやね。

【新山（経営管理課課長）】　　先ほどの7億5,100万円、今回、キャッシュフローでマイナスというふうになっておりますが、もしこれが、売却がプラスでなければ、8億円以上のキャッシュのマイナスという状況でございます。

【豊田委員長】　　ただ、7億円キャッシュがマイナスだった要因としては、もう一度ご説明いただくと、どういうことがあったということですかね。

【新山（経営管理課課長）】　　当初の7億5,000万円のマイナスが当初より約5億円程度悪化したというところだと思うんですけども、当初の想定では、単年度のキャッシュフローがマイナスの2億7,000万円程度で済むんじゃないかと想定しておりました。こちらが決算額ではマイナスの7億5,100万円となりました。この差が約5億円程度でございます。

この5億円程度なんですけれども、先ほど、その前に損益を説明させていただきましたが、損益の中で6億円損益が悪化したというご説明をさせていただきましたが、この6億円の損益の悪化状況としましては、主なものは薬品費と材料費、こちらが大きくかかったというのが挙がっております。

ただし、6億円で費用が出ていきますと、キャッシュでも6億円程度マイナスになると思うんですけども、先ほどの5億何がしまで下がったというのは、その売却でキャッシュが浮いた分、9,000万円が入ったので、その分、費用というか、6億円が軽くなったという状況でございます。

前へ映したほうがわかりやすいでしょうか。

【豊田委員長】　　いやいや。それから、キャッシュのマイナスの多くは、平成30年度の前半期でしょっているわけですよ。後半期はずっと毎月のキャッシュフローの計算上はプラスになっていると、そういうことで、今後はよくなる可能性があるんですが、ちなみに今年度の4月、5月のキャッシュフローはどんな状況だったんでしょうか。

【新山（経営管理課課長）】　　前に映してもよろしいでしょうか。

【豊田委員長】　　お願いします。

【新山（経営管理課課長）】　　すみません、これ、4月、5月の累計となっております。

累計というか、4月、5月の状況となっております。キャッシュフローのところだけでしょうか。

こういう状況でございまして、まず4月でございしますが、4月は、この折れ線グラフが予算でございまして。4月は退職金等の払いもありますので、落ち込むことを想定しておりまして、7,200万円のマイナスに対して7,200万円のマイナスと、想定どおりと言ったらおかしいんですけども、想定の金額でございました。

5月がとんとんかなと思っておりましたが、少し悪化しておりまして、2,700万円のマイナス、当初では500万円程度プラスが出るかなと見込んでおりました。ここはゴールデンウィークがありますので、入院等及び外来等が減るという想定で、若干売り上げを下げて見ておりましたので、少し下げて見ていた状況ですが、さらにちょっと下回った状況でございます。

なので、6月以降、7月に向けて早く改善傾向に持っていきたいなと思っております。

【豊田委員長】 ちなみに、そのキャッシュフロー以外の営業の指標はどんな動きをしているんですかね、4月、5月。

【新山（経営管理課課長）】 収益からですけれども、収益はこういう形で、ちょっと減収が続いている状況ですね。予算、5月が9億5,000万円程度いきたかったところが9億円程度と、5,000万円程度下がっています。大きな要因としましては、入院で、ちょっと見にくくて申しわけございません。6億2,500万円程度の入院収益を予定しておりましたが、5億4,500万円と、ここで大きく差が出ております。これ、稼働率が若干低い状況が続いておりましたので、こちらにつきましては、入院を増やす等、救急を率先してとるよう、今、対策をとってございます。

【豊田委員長】 ごめんなさい。病床は何床で運営しているんですか。

【新山（経営管理課課長）】 4月以降は400床で。

【豊田委員長】 400床で。

【新山（経営管理課課長）】 フルオープンしております。

【豊田委員長】 それから。

【新山（経営管理課課長）】 これ、ちょっと会議に使った資料ですけど、入院で340床まで行ってほしいところが、ちょっと足りないところがございます。赤が週末です、週末が弱いところがありますので、こちらを努力して埋める必要があるかと思われます。

これを見ていただくとよくわかるかと思いますが、ちょっと見にくくて申しわけござい

ません。病床の稼働率ですが、時々低いところがございます。これが4月から始めております地域包括ケア病床、こちらがちょっとまだ対象患者がうまく回っておらず、下がっている状況でございます。

それ以外の一般急性期病床につきましては、8割以上、多いところは9割以上入っておりますので、まず、ここをうまく埋めるというのが課題かと思われれます。

費用等は大きくずれておりませんので、主な課題事項としましては稼働率を上げるというところが一番の課題かなと思われれます。

【豊田委員長】 ほかにご質問、ご意見、ございませんでしょうか。どうぞ。

【伊佐地委員】 病床での稼働率なのでこぼこ、ありますよね、一般のところも。どういう要因があるのか、そういうところの分析は。大学病院で今、対策会議をやっておりますけれども。

【市川（病院長）】 やはり基本的には、検査入院が週初めに多いですので、その対策をどういうふうに行っているかということによりますし、先ほど見ていただいたように、包括ケア病棟のほうへやはり入院患者から少しシフトして、もう少し増やしていかなければならないなと思っております。

【伊佐地委員】 また、包括ケアの場合、開業医の先生との関係。

【市川（病院長）】 うちの包括ケアは、あくまでも急性期病棟からの患者さんということで、他院から包括ケアの患者さんをとるという方向では、今やっております。

【豊田委員長】 ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

【青木委員】 先ほどの話ですけど、包括ケア病棟をつくるとき、私は結構病院長に反対したんですけども、それを増やすにはやっぱり自分のところで来た急性期を包括ケアへ回していくということになる。そうすると、逆紹介も悪くなる。あまり高度急性を目指す病院としてはどうかなという話をいたしました。

今見ると、25%という病棟稼働率ですから、これを増やせば増やすほど、やはりそういうことになってきて、ほんとうに最初目指した病院じゃなくなるんじゃないかなという気がします。そこはうまくやっていたかかないと仕方がないと思っております。

【市川（病院長）】 基本的にうちの包括ケア病棟というのは、自宅へ帰る、自宅相当へ帰る患者さんを対象としておりますので、亜急性の療養、あるいは慢性の療養が病院で必要な患者さんが病院へ送るという形になるかと思います。

【中澤委員】 いいですか。

【豊田委員長】 はい、どうぞ。

【中澤委員】 この数字については結果ですのであれなんです、医業収益も当然増えています。ただ、費用が、いろいろ諸事情はよくわかりますが、人件費等々が非常に増えています。減価償却も当初から増えるのはわかっているんですが、そこへ来年度以降の機械もまた新しいものも考えていくという中で、すぐにはプラスの収益というのはなかなか難しいでしょうけど、どういうふうな年度で計画がやられていくのか。また、今日は当然できないと思うんですけれども、具体的にやっぱり数字で示していただくと一番よくわかるかなと。

借入金も増えている、利息も、多分これは固定金利だろうと思いますから、増えていくようなことはないと思うんですが、金利がもっと動向が変わればまた変わってくるわけですので、その辺を一遍、十分お考え願えればなというふうに思います。

【新山（経営管理課課長）】 すみません、今の中澤委員からのご指摘でございますけど、一応、今回、平成31年度、令和元年度から第3期中期計画期間に入っております。この前、2月ごろですかね、中期計画をご説明させていただきましたが、一応、その計画期間内では、キャッシュフローで黒字にするというのが目標にしておりました。

この先、6年目で何とか損益上でもプラスになるのではないかというふうに見込んでおります。まだ正確に算出させておりませんが、今一番償却が大きいのが医療機器の三十数億買ったものの償却が多くなっております。これが5、6年かけて終わりますと、大体7億円程度の償却に下がってまいりますので、このあたりで、償却を入れた損益でもプラスに転じると考えております。

【豊田委員長】 ほかに。

【伊佐地委員】 救急患者をもうちょっと上げていったら、必然的に病棟が埋まってくるんじゃないですかね。そのあたりの戦略はどうお考えですか。

【市川（病院長）】 今も救急に関しましては対策をとっておりまして、少しずつ増やしてきておるところです。手術件数、それからカテーテル件数、あるいは放射線治療等々、出ておりますので、救急からもう少し入院をとって全体的に上げると、かなりいけるんじゃないかと思っています。

【永藤委員】 経費の中で、特に委託費が多くて、その占める割合が多いんですけれども、この中で財務諸表の9ページ、重要な債務負担行為というところで、委託契約、3年でしているんですけれども、何か委託契約って毎年更新すると、それで交渉することも考

えられるんですけども、なぜ3年なのかということ。

【新山（経営管理課課長）】 基本は我々も毎年度入札というのは基本にしております。ただ、今回、新病院開院に当たりまして、実はこの3種類だけ、設備の委託と清掃の委託と警備の委託、こちらを逆に複数年度で安くしようというのでやらせていただきました。特に設備に関しましては、新たに新しい病院を全てメンテナンスしてもらおうと思ひまして、こちらをメーカーのフル委託契約にしますとかなり費用が上がります。これだけでも3億程度になってきますので、これを、メーカーとはいいいませんので、OEMとはいいいませんが、純メーカーではないところと委託契約を結んで委託費用を圧縮しようということで結んだというものでございます。

【豊田委員長】 ほかにご質問、ご意見ございませんでしょうか。

どうぞ。

【竹田（理事長）】 まず、昨年度に関して、キャッシュフローですが、損益計算書はややこしいものですから、キャッシュフローで結局7億円ぐらいの赤字になりましたけれども、月別のキャッシュフローのグラフがあったと思うんですけど、4月、5月がものすごく大きいんです。2億5,000万円か。そこでもう5億円ぐらいが赤字なんですね。

だから、4月、5月は引っ越し前の1カ月と、引っ越した後の1カ月です。一番、ここでものすごく赤字が膨らんで、その後、8月ぐらいからちょっと黒字になってきて、10月からずっと黒ですけど、また黒字の幅が非常に小さいものですから、結局、最終的には昨年度のキャッシュフローに比べて5億円ぐらいの上乗せになったと。

それで、4月から400床のフルオープンになりましたので、もっとぐっと上がるかなと思ったんですけども、それが思いのほか上がらなかった。その1つの原因は、先ほど言いました地域包括ケア病床の使い方が皆さんわからないという、どんな感じで送ったらいいのかと、ずっとヒアリングして聞いていますと、どんな患者さんを送ったらええのかわからんという、それが1つあって、ああいうふうに稼働率が非常に低かったこともあると思います。

それから、特に4月はちょっと気分的に開院して1年たって、職員がちょっとほっとしたところがあったりして、何かこう全体的にのんびりムードが出て、いろんな問題もあって、それで稼働率が悪くなって、4月が非常に悪くて、5月は挽回しようと思ったら10連休がありましたので大変で、6月ももっと増えるかなと思ったら、なかなかいかなかったもので、6月の中旬以降、院長が中心となって、私と、それから野中理事、3人で各診療

科とヒアリングしてみたんです。大学病院でもやっていますね。あれをやってから上がってきたんですけれども、それをやろうということになって、もうずっと各診療科の科長と話しまして、7月は大分稼働率が上がってきまして、救急も大分受けるようになって。

ですから、今、地域包括ケアの病床も大分、7月はもうかなり増えました。あと、使い方がわかってきた。つまり、急性期を脱して、回復期に入れて、それで家に帰ると。その流れをぜひ理解してほしいということで、それを説明したらだんだんわかってきて、ちょっと増えています。

【伊佐地委員】 在宅患者さんの一時的な受け入れとか、そういうのはされる予定はないんですか。

【市川（病院長）】 今のところは、ないんですけれども、今後は、少し受けていけたらとは思いますが。それも当院の患者さん主体というふうになるんじゃないかと思っています。外からというわけではないです。

【伊佐地委員】 各診療科、院長に、低いということ言ってもらえば、「全然だめだな。」という風に、ぼそぼそと言っているといつの間にかそれが伝わって上がっていく、というような効果があるのでは。

【豊田委員長】 ほか、よろしいでしょうか。

僕もいろんな機会があると、桑名市総合医療センター、市の病院と民間病院との統合の成功事例なんていってしゃべっておりまして、いろんなところで、そのときに、財務的にもキャッシュフローがプラスになったというふうにしゃべっておりますので、ぜひ何とか頑張ってプラスにさせていただいて、今後も引き続き僕がいろんなところでしゃべれるように、よろしくお願ひしたいと、そういうふうに思います。

それと、もちろんやはり医療センターの、議会に対して、あるいは市民に対して説明責任がありますので、これらが赤字をつくると、やはりそれを市民の皆さんに納得していただく必要があるので、大変だと思うんですけど、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、そういう経営の改善に努力すべきであるというご意見はたくさんいただきましたけれども、先ほどの市からの説明がありましたように、地方独立行政法人法の規定に基づく市長が財務諸表を承認するに当たっての評価委員会としての意見ですね。つまり、合規性の遵守及び表示内容の適正性ということの観点から、承認することが適当であるというふうにさせていただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。その2点につきましては、財務内容も当然改善していただく必要があるということでございます。

どうでしょうかね。財務内容、経営の改善に取り組んでいただきたいということをちょっと付記するということはできますかね。それを一言付記していただくという形で、承認をすることが適当であるとさせていただきますが、財務内容の改善にご努力いただきたいと、そういう意見が出たということを付記させていただくことにさせていただきますと思います。

そういうことで、意見書の最終的な文章につきましては、持ち回り決裁後に委員長一任ということにさせていただきますと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。そのようにさせていただきます。

では、続きまして、平成30事業年度の業務実績に関する評価に対する意見（案）の確認に入ります。

まず、前回で行った評価のうち、法人の自己評価と評価委員会の評価が異なった項目のコメントを確認いたします。

事務局から説明をお願いします。

【事務局（内田）】 法人の自己評価と評価委員会の評価が異なった項目のコメントについて、本日お配りいたしましたA3判の地方独立行政法人桑名市総合医療センターの平成30年事業年度に係る業務実績に関する評価結果（案）の13ページから14ページをご覧ください。

大項目第1、市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置、中項目4、より安心して信頼できる質の高い医療の提供、小項目（3）施設設備の整備及び更新につきまして、法人の自己評価4に対しまして、評価委員会の評価は3でございました。

コメントといたしましては、病院駐車場拡張の検討及び医療機器の長期的な更新計画の作成に着手したことは評価するが、いまだ計画の段階であり、実施に至っていないとしております。

桑名市総合医療センターの平成30年事業年度に係る業務実績に関する評価につきまして、法人の自己評価と評価委員会の評価の結果が分かれた項目は以上1項目でございました。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

前回、欠席された委員の皆様には、詳しくはご存じなかった面もあるかと思うんですが、後の項目は全て法人の自己評価そのまま承認をさせていただいております。この1項目

だけ、ちょっと修正をさせていただいたということでございます。その理由は、ここに書かれているとおりでございますが、このような形の説明でよろしいかどうかという確認でございます。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、この文章にさせていただきます。

それでは、次に、平成30事業年度の業務実績に関する評価に対する意見（案）につきまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局（内田）】 平成30年事業年度の業務実績に関する評価に対する意見（案）、本日お配りいたしましたA4の地方独立行政法人桑名市総合医療センターの平成30年事業年度に係る業務実績に関する評価に対する意見（案）についてご説明申し上げます。こちらになります。

まず、1ページをごらんください。

年度評価の方法でございますが、項目別評価と全体評価を行いました。

項目別評価では、法人による自己評価をもとに、法人へのヒアリングを通じて自己評価の妥当性や年度計画の進捗状況について、小項目評価及び大項目評価を行いました。

また、全体評価では、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の進捗状況について、総合的な評価を行いました。

次に、1、大項目評価の第1、市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目的を達成するためとるべき措置につきましては、2ページでございます小項目評価の集計結果から、平均点は3.2であり、1ページからの大項目評価に当たり考慮した事項を踏まえて、第1回評価委員会の際に配付いたしました地方独立行政法人桑名市総合医療センターの業務実績に関する評価の基準で示すところのB評価（おおむね計画どおりに進んでいる）が妥当としております。

次に、2ページ目中段以降の第2、業務運営や財務管理の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置につきましては、3ページでございます小項目評価の集計結果から平均点は3.1であり、2ページ下段からの（2）大項目評価に当たり考慮した事項を考慮いたしまして、先ほどの評価基準で示すところのB評価（おおむね計画どおりに進んでいる）が妥当としております。

次に、3ページ、Ⅱ、全体評価でございます。

1、評価結果と判断理由でございますが、法人の平成30年事業年度の業務実績については、2つの大項目評価がともにB評価であること、加えて、2、全体評価に当たり考慮

した事項を考慮し、全体としては中期計画の達成に向け、おおむね計画どおりに進んでいると評価したとしております。

全体評価に当たり考慮した事項といたしましては、項目評価に当たり考慮した事項以外のものを記載しておりますが、市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置では、新病院開院後、病床が400床のフルオープンに至らない状況下での稼働であり、目標達成が困難な状況であったと考えられることなどを挙げております。

そして、2、業務運営や財務管理の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置では、職員の就労環境の整備において、改修工事の完了後、院内保育を開始し、職員就労環境の整備に努めたことなどを挙げております。

続きまして、3、評価に当たっての意見、指摘等では、医師の確保については、医療機関との連携強化に努めているが、一般的に医療の高度化や細分化による医師が充足することは少なく、医師の地域偏在や診療科偏在も進んでいる状況であるため、今後も努力してもらいたい。

会計待ち時間の実測調査を行っているが、受付から会計までの待ち時間の調査についても検討してもらいたい。

病院駐車場を拡張することであるが、送迎の車やタクシーが一時的に駐車場内へ乗り入れできるようにするなど、駐車場の運用方法についても検討してもらいたい。

今後も経費の削減と病床稼働率の向上について対策を行い、収支の改善に努めてもらいたい。

救急の受け入れや病床稼働率の向上に努めることも重要であるが、職員の労働管理など、働き方改革にも対策が必要ではないか。

以上を挙げております。これで終わります。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

それでは、委員の皆様方からご意見、お願いします。それで、この意見、指摘等は、前回出席した委員の意見をまとめておりますので、今日出席された委員の皆さんで、何かこれにつけ加えておいたほうがいいのかということがあれば、ぜひご発言をお願いしたいと思いますけど。

青木先生が先ほどおっしゃったご意見の中で、特に地域の医療機関、あるいは開業医の先生方に対する逆紹介ですか、その辺はどうでしょうか。この数字、どうなっていたかな、

逆紹介率。

【市川（病院長）】 逆紹介率は、今、８５％まで上がっています。

【豊田委員長】 ８５％まで上がっていると。

【市川（病院長）】 紹介率が６５％。

【豊田委員長】 ６５％と。８５％はすごい極めていい。

【市川（病院長）】 ７０％以上がクリアする段階で、昨年度はたしか６０％ぐらいでしたので。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

ほか、何かご質問、ご意見とかございませんでしょうか。

そうしましたら、この案の形で報告をさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

議事があと１つ残されているのですが、時間の関係上、このあたりで切らせていただきまして、議事の４番目の第２期中期目標期間の業務実績に関する評価に対する意見聴取というのは明後日ですかね。明後日の評価委員会に持ち越させていただきたいと思います。

それでは、市のほうにマイクをお返しさせていただきますので、よろしくお願いします。

【事務局（内田）】 本日は長時間にわたりご議論いただき、まことにありがとうございます。本日ご意見をいただきました平成３０年財務諸表に対する意見につきましては、次回の評価委員会にてご確認をいただきたいと思います。

次回の評価委員会でございますが、７月２４日水曜日、午後６時４５分から、場所は桑名市役所３階第２会議室にて開催の予定となっております。

資料につきましては、本日の資料を引き続き使用いたしますので、ご持参いただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和元年度第２回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を終了いたします。ありがとうございました。

— 了 —